



認知症・介護に関するご相談は
地域包括支援センター Tel.86-0112

町では、偶数月の第4水曜日、認知症についての情報交換や相談で、介護者がリフレッシュできるよう、「認知症の人と家族の会」を開催しています。

家族が認知症かもしれないと思った時、なかなか相談できず不安になったり、もし認知症と診断されたら今後どうなっていくのか、何をすればいいのかと不安が増していくと言われています。

「認知症の人と家族の会」では、本人と家族の不安について、経験のある家族から介護経験の話や相談や、介護保険サービスや本人・家族の健康管理について保健師へ相談することができます。

参加されたかたからは、「大変なのは自分だけでないことがわかった。」
「自分と同じ経験をしている人がいるので、また話を聞きたい。」
「家族の認知症について、誰にでも話せることではないので、話ができる場があつてよかった。」
等の感想をいただいています。

『認知症の人と家族の会』
▼いつ 10月23日(水)
▼午後1時30分～3時
▼どこで 健康福祉センター
▼内容 認知症や介護についての情報交換や相談
*事前に地域包括支援センターへお申し込みください。

【認知症ケアのポイント】
介護者は、初めは認知症の人に振り回されて戸惑ったり、介護に疲れ果てたり、気持ち落ち込んだりしますが、徐々にベテラン介護者になっていきます。

第一：とまどい、否定
悩みを打ち明けられず一人で悩む時期
第二：混乱、怒り、拒絶
どう対応してよいかわからず一番つらい時期
第三：割り切り、あきらめ
怒ったり、イライラするのは自分に損になると思い始め、割り切るようになる。
第四：受容
認知症に対する理解が深まり、認知症の人の心理を自身に投影できる。

あるがままのその人を家族の一員として受け入れることができるように、一番つらいと言われる第二の時期は介護や医療サービスを積極的に利用することで乗り切りましょう。



■相談・問い合わせ
白鷹町認知症高齢者見守りネットワーク協議会事務局
白鷹町地域包括支援センター
☎86-0112

認知症の早期診断、早期対応のために 白鷹町認知症初期集中支援チーム設置促進モデル事業が始まります

町では、関連団体、関連機関の協力のもとに、国の「認知症初期集中支援チーム設置促進モデル事業」を行うことになりました。この事業は、医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、介護福祉士、臨床心理技術者と町の地域包括支援センター職員を構成員とするチームを設置し、チーム員による訪問や会議、継続的なサポートを行うことで、認知症になっても、『早期診断・早期対応』することにより、住み慣れた地域で、できるだけ長くその人らしく生活できるよう、ご本人やご家族への支援を行うものです。

この事業の対象となるかたは、以下のかたです。

- 現在、医療・介護サービスを受けていない、または医療・介護サービスを中断している40歳以上のかたで、在宅で生活している認知症が疑われるかた
- 医療・介護サービスを受けていても、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯で介護者も認知症が心配になった等で対応に困っているご家族

※この事業についての相談やチーム員による訪問をご希望のかたは下記までお問い合わせください。



■問い合わせ 白鷹町地域包括支援センター ☎86-0112